

# 「YNU 書き言葉コーパス」における 日本人大学生から教師への依頼メールの構成分析

谷 誠司, 坂本 勝信, 山下 浩一

Structure of Request Email from Japanese University Students to  
University Teachers in a YNU Corpus.

TANI Seiji, SAKAMOTO Masanobu, YAMASHITA Koichi

2020年11月6日受理

## 抄 録

日本人大学生へのメール文指導に関する基礎的研究として、「YNU 書き言葉コーパス」のうち日本人大学生が大学の教員宛に書く依頼メールを対象に依頼メールの構成を分析した。分析に先立ち、依頼メールの構成要素（タグ）の枠組みを定めた。構成要素（タグ）の枠組みとしては件名、宛名、切り出し、自己紹介、前置き、状況説明、依頼、副次的依頼、対人配慮、挨拶、署名を設定した。分析の結果、全体の傾向としては概ね件名→宛名→切り出し→自己紹介→前置き→状況説明→依頼→副次的依頼→挨拶→署名の順で出現していることが明らかになった。また、「前置き」「依頼」「状況説明」に焦点を当てた出現順序パターンとしては「1文=1構成要素」の組み合わせの「前置き－状況説明－依頼」のパターンが最も多いことが分かった。

キーワード：YNU 書き言葉コーパス、日本人大学生、教師、依頼メール、構成分析

## 1. はじめに

総務省による「平成30年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」によると、平日の全年代の利用行為別のインターネット平均利用時間は、メールを読む・書くが30.8分、ソーシャルメディアを見る・書くが26.7分、ブログやウェブサイトを見る・書くが21.5分であった。また、年代別では、10代は13.5分、20代は21.4分、30代は32.0分、40代は39.6分、50代は43.2分、60代は23.5分となっている。同調査では10代・20代では「動画投稿・共有サービスを見る」や「ソーシャルメディアを見る・書く」の利用時間が長いことが明らかになっているが、大学生にとってメールは教員とのやり取りや就職活動において中心的な役割を果たしている。今後、変化は予想されるが、日本社会においてメールは依然必要不可欠なコミュニケー

ションツールであり、若年層でメールの使用時間が少ないことから、メールの書き方について学ぶ必要性は高まっていると言える。

本研究では日本人大学生へのメール文指導についての基礎的な研究として、依頼メールを取り上げた。「YNU 書き言葉コーパス」のうち、日本人大学生が大学の教員宛に書く依頼メールを対象に依頼メールの構成を明らかにするためまず依頼メールの構成要素（タグ）の枠組みを定め、その構成要素の枠組みからの分析を行った。

## 2. 先行研究

依頼メールに関する研究、その中でも構成（談話展開、展開形式）と評価の観点に関する先行研究を紹介する。

談話展開に関する先行研究としては宮崎（2007）と東（2015）がある。

宮崎（2007）は日本語母語話者 14 名とタイ人日本語学習者 14 名に、過去に受講経験のある教師に対してレポート執筆に必要なインタビューを依頼するメールを書かせた。そして依頼メール文の談話展開を先行研究（猪崎 2000 など）を参考に分析をした。被験者の 50%が使用していた項目は以下の通りであった。

<件名>

- 名乗り（自分の名前や所属などの情報開示が行われる部分）
- 依頼予告（当該メールで依頼がなされることを予め伝えておく部分）
- インタビューの主題提示（依頼内容の主題が提示される部分）
- 宛名（メール送信者の宛名の表示）

<開始部分>

- 宛名（メール送信者の宛名の表示）
- 挨拶（初めの挨拶が行われる部分）
- 自己紹介（自分の名前や所属などの情報開示が行われる部分）
- メールへの詫び（突然メールを送ること、メールという媒体の使用を詫びる部分）
- 授業の感想（履修授業についての感想を伝える部分）
- 近況伺い（相手の近況に言及する部分）

<主要部>

- 依頼予告（以降の記述で依頼がなされることを予め伝えておく部分）
- 事情説明（依頼に入る前に依頼に関する情報を伝える部分）
- 依頼（相手になんらかの行為遂行を依頼、または許可を求める部分）
- 依頼に関する情報提供（依頼内容に関する情報の補足を行う部分）
- 依頼遂行の手筈（依頼遂行の日程や場所の調整に関わる部分）
- 迷惑への詫び（相手に迷惑をかけることを詫びる部分）
- 譲歩（相手の意思や都合を優先したり代案を出したりして譲歩する部分）
- 依頼の終結（依頼を重ねたり、依頼をまとめる部分）
- 返信要求（返信を求める部分）

<終了部>

挨拶（挨拶が行われる部分）

感謝（感謝の気持ちを表す部分）

署名（署名の表示）

東（2015）は「YNU 書き言葉コーパス」にある依頼メールで日本人大学生と韓国語学習者が書いたデータを対象にメール文を 34 の機能的要素に基づき分類し、使用率が 50%以上の機能的要素を取り出し、メールの展開形式を明らかにした。結果は以下の通りであった。先生宛のメールでは宛名→冒頭の挨拶→自己紹介→依頼予告→事情説明→必然性→恐縮の表明→仮定→依頼→最後の挨拶→署名、という展開であった。韓国語学習者は署名を入れない人が多かった以外は日本人大学生と同じであった。友人宛のメールでは日本人大学生の場合は冒頭の挨拶→状況確認→事情説明→必然性→依頼、韓国語学習者の場合は宛名→冒頭の挨拶→自己紹介→近況伺い→状況確認→事情説明→必然性→仮定→依頼→返信要求→念押し、という展開になった。

次に依頼メールの評価の観点に関する先行研究を紹介する。

ツォウン（2007）はベトナム人大学生 93 名と日本人大学生 67 名にアンケート調査を行った。論文を書くために必要な本を借りる目的で、以前授業を受けたことがある先生にメールで依頼する場面を提示し、4 つのサンプルメールを見て順位付けをさせた。またその際重視した特徴を 14 項目から 4 項目を選択させた。メールのサンプルは、基本構造を挨拶、自己紹介、状況説明、行動の促し、文章の締めくくりとし、サンプル A（基本構造＋関係性への言及＋効果的な補強）、サンプル B（基本構造＋恐縮）、サンプル C（基本構造のみ）、サンプル D（基本構造＋関係性への言及＋恐縮＋切り出し）とした。評価項目は正当な理由、関係言及、迷惑意識、状況説明、近況・健康への気配り、本の必要性、自分の努力、責任感、礼儀正しさ、簡潔性、余分な情報、書くべきこと、依頼の立場、より良い人間関係、としていた。

長嶺（2013）は社会人の日本人母語話者 4 名と上級フランス人日本語学習者 2 名を対象に日本語で書かれた 3 通の依頼メールを読んでもらい、どのような印象を持ったかインタビュー調査を行った。グラウンデッドセオリー・アプローチ（GTA）による分析の結果、評価の観点として以下の 5 点があることが明らかになった。

- 1) 不安解消につながる明瞭さ（目的が明瞭、依頼の妥当性、依頼内容の分かりやすさ、身元が明白、不安解消）
- 2) 相手への配慮（相手への気遣い、謙虚な姿勢、礼儀正しさ、自分の都合）
- 3) 表現の適切さ（表現の適切さ、やわらかい表現、改まり度）
- 4) 依頼メールの形式（談話展開、メールの形式、見やすさ）
- 5) 感情（好み、学生らしさ）

胡(2014)は大学の教員12名と日本語教師20名、大学院に在籍する留学生22名、日本語学校に在籍する日本語学習者21名を対象に調査をした。「研究生になりたい」というメール場面について非母語話者が書いた異なる8通のメールを提示し、順位付けをしてもらい、その後評価の観点を尋ねる21項目を5段階評定してもらった。評価の観点を尋ねる21項目の評定を因子分析した結果、以下の4因子(負荷量が.30に満たない2項目を除外)が抽出された。

第1因子:「読み手への配慮」

- ・メールの開始部(あいさつなど)が丁寧である
- ・メールの終了部(結びの表現)が丁寧である
- ・書き手の謙虚な姿勢が読み取れる
- ・読み手に対する配慮が感じられる
- ・レイアウトが読みやすく工夫がされている
- ・読み手の個人情報を入力した方法について書かれている
- ・書き手の熱意が伝わってくる

第2因子:「日本語の正確さ」

- ・文法的な間違いが少ない
- ・メールの文面に誤字・脱字が少ない
- ・メールの文面が適切な文体で書かれている
- ・日本語として不自然なところが少ない

第3因子:「研究理解・研究能力」

- ・書き手が研究したい内容が書かれている
- ・書き手の今までの経歴(学歴・職歴など)や現在の状況が書かれている
- ・読み手の専門分野が適切に把握されている
- ・書き手が研究とはどんな活動かが理解できている
- ・読み手の著書、論文などを読んでいることが分かる

第4因子:「書き手の背景」

- ・書き手のこれまでの実績(〇〇優秀賞、〇〇試験高得点など)が書かれている
- ・書き手の個人的な情報(趣味、性格、家庭環境など)が書かれている
- ・書き手がこれまで履修した授業や身につけた知識が詳しく書かれている

萩原(2014)はアメリカの大学で3年以上日本語を履修した学部生8名を対象に授業を以前取ったことがあり現在別の大学に移った先生に日本企業でのインターンシップに参加するために必要な推薦状を依頼するメールを書かせた。学部生8名を明示的に見直し項目を提示された群と何も提示されなかった群に学習者を分け、それぞれの群の文章が書き直し前後でどのように変化するかを観察した。

明示的に提示された見直し項目には、次の8点が挙げられた。

- 1) 天候、時候のあいさつ
- 2) 書き手の近況報告

- 3) 読み手の近況を尋ねる質問（例：いかがおすごでしょうか）
- 4) インターンシップ申し込みの志望動機
- 5) 話題・段落の変化を示す言葉（例：ところで、実は）
- 6) 読み手に負担をかけることをわびる表現（例：恐れ入りますが、・・・て申し訳ありません）
- 7) 読み手が受ける負担を軽減する表現（例：お時間があれば、お忙しかったら結構です）
- 8) よろしくお願ひします

由井（2015）は中級前期日本語学習者2名、上級日本語学習者2名、日本語母語話者2名の依頼メール文（レポート作成のために家の見学をお願いする）を提示しながら、それぞれのレベルの特徴を説明した。そして、相手に負担の大きい依頼をするメール文の場合、プロフィシエンシーが上がるにつれて以下の5点に変化があるとした。

- 1) 構成要素そのものの産出の有無
- 2) 構成要素間の関係づけの適切さ
- 3) 承諾・不承諾の選択権付与の有無
- 4) 相手への配慮
- 5) 理由説明における接続詞の選択

最後に依頼メールではないが、本研究で参考にした依頼に関する先行研究を紹介する。熊谷・篠崎（2006）は国立国語研究所による第2次岡崎敬語調査の〈荷物を預ける〉〈往診を頼む〉〈釣銭の確認を頼む〉という3種類の依頼場面を分析するために上位分類として「コミュニケーション機能」を置き、その下に個々の機能的要素として「まず話を始める（《きりだし》）、相手に事情を知らせ、依頼の必要性などの状況認識を共有してもらう（《状況説明》）、相手の承諾を引き出すような働きかけをする（《効果的補強》）、依頼の意を表明する（《行動の促し》）、相手の負担に対する恐縮や遠慮の気持ちを表明する（《対人配慮》）」を設定するモデルを提案した。

松田（2009）は熊谷・篠崎（2006）のモデルを改変し、コミュニケーション機能を「切り出し」「状況説明」「理由」「確認」「指摘」「依頼」「補足」「再確認要求」として単純化した。

生天目・劉・大和（2012）は、猪崎（2000）や謝（2001）等の先行研究を参考に「前置き（依頼者側の依頼の意思を予告する）」「概要説明（依頼内容（調査の存在のみ）の説明）」「詳細説明（具体的な調査内容についての説明）」「依頼発話（非依頼者への協力を求める発話）」の4つを設定した。

### 3. データ

本研究では「YNU 書き言葉コーパス」を使用した。「YNU 書き言葉コーパス」に

は、横浜国立大学（Yokohama National University）の留学生（韓国語母語話者 30 名、中国語母語話者 30 名）と日本人大学生（30 名）を対象とし、場面や読み手の異なる 12 の作文タスクを課すことで得た計 1080 編の作文が収められている。12 種類のタスクは、次の 3 点から分類される。1）自発性：自分から書かなければいけない「自発型」と第三者に依頼されて書く「頼まれ型」2）読み手：読み手が「特定の相手」と「不特定の相手」の 2 種で、「特定の相手」は「疎遠（目上）」と「親しい（同僚・友人）」3）文長：やや短い文章が予想される「依頼・説明・描写」（「長さ A」）と長い文章が予想される「意見・手紙・物語」（「長さ B」）金（2017）では「YNU 書き言葉コーパス」のタスクを表 1 のようにまとめている。

表 1：YNU 書き言葉コーパスのタスク

「自発型」のタスク	読み手	「頼まれ型」のタスク	読み手
長さ A（短）		長さ A（短）	
<1> メールで面識のない先生に本を借りる	特定・疎	<7> メールで先生に観光スポット・名物を紹介する	特定・疎
<2> メールで友人に本を借りる	特定・親	<8> メールで先輩に起こった出来事を友人に教える	特定・親
<3> レポートでグラフを説明する	不特定	<9> 広報誌で国の料理を紹介する	不特定
長さ B（長）		長さ B（長）	
<4> メールで学長に奨学金増額の必要性を訴える	特定・疎	<10> メールで先生に早期英語教育の意見を述べる	特定・疎
<5> 手紙で入院中の後輩を励ます	特定・親	<11> メールで友人に早期英語教育の意見を述べる	特定・親
<6> 新聞の投書で市民病院の閉鎖について意見を述べる	不特定	<12> 小学校新聞で七夕の物語を紹介する	不特定

表 1にある < > 内の数字がタスク番号である。本研究では <1> のタスクを使用した。<1> のタスクの内容は以下の通りである。

◀◀ 1 ▶▶

あなたが借りたいと思っている『環境学入門』という本が図書館にはなく、面識のない田中先生の研究室にあることがわかりました。レポートを書くためにはどうしてもその本が必要です。田中先生にそのことをメールでお願いしてください。

#### 4. 分析方法

期間：2018 年 9 月から 2019 年 4 月

分析者：筆者 3 名



進め方：宮崎（2007）、熊谷・篠崎（2006）、松田（2009）、生天目・劉・大和（2012）を参考にして、暫定的な分析枠組みを作成した。暫定的な分析枠組みに沿って日本人大学生が教員に依頼メールを書いた30個のデータのうち、まず5個のみを個別に分析し、3人で分析結果を持ち寄り、比較検討をした。その結果から必要な場合は暫定的な分析枠組みに変更を加えた。この手続きを6回続けた後、分析枠組みを確定し、30個すべてのデータの分析を見直した。最終的な分析枠組みは表2のとおりである。

表2：本研究で使用した分析枠組み

構成要素 (タグ)名	定義	例文
件名	件名の欄に書いてあるもの	①本の貸し出しのお願い (J016) ②『環境学入門』という本をお借りしたいのですが ([J013])、③教育人間科学部〇年の [J001] です。
宛名	本文の冒頭にあるメールの受信者名	田中先生
切り出し	メール本文の始まりを知らせる。(①挨拶、②対人配慮的な表現)	例1：初めてメールを差し上げます (J003) / 例2：突然のメール、失礼いたします (J005) / お忙しいところ申し訳ありません。(J004) / はじめまして。(J012)
自己紹介	メール送信者の名前や所属を明らかにする部分で、メール本文中に文章の形式で出現するもの	教育人間科学部〇年の [J013] と申します。
前置き	メールを送信した理由を明らかにする部分	この度はお伺いしたいことがありメールを送らせていただきました。(J001) / 実は、先生の研究室に所蔵されている本について、おうかがいしたいことがございます。(J012)
状況説明	依頼に至った理由や周辺情報を説明するもの	今回、授業のレポートの為に、田中先生がお持ちの『環境学入門』という本が必要になりました。(J017) / レポート作成の際に必要なので (お力をかしてもらえると嬉しいです。※依頼) (J010)
依頼	一次的依頼内容 (単独あるいは前置きに組み込まれたもの)	①(よろしければ ※対人配慮)『環境学入門』という本を貸していただけないでしょうか? (J029)、②今日は、『環境学入門』という本をお借りしたくて(メールしました。※前置き)(J024)
副次的依頼	核心的依頼に伴って生じる二次的依頼(返信のお願い・都合伺い)	近日、先生のご都合のよろしい日はございますでしょうか。返信いただければ幸いです。(J005)
対人配慮	読み手への気遣いを示し、それがないと、失礼になるもの(独立していて、他の表現の中に組み込まれていないもの)	お忙しいところ、大変申し訳ありませんが、(こちらの書籍をお借りすることはできますでしょうか。※依頼) (J005) / お手数ですが、(こちらのメールに返信をお願いいたします。※副次的依頼)。(J007) / もしよろしければ (貸していただけないでしょうか。※依頼) /

挨拶	締めくくり	よろしくお願ひします。(J024) / (急で申し訳ありませんが、※対人配慮) どうぞよろしくお願ひします。
署名	本文末にあり、所属や名前などを明記した形式表現	教育人間科学部〇年 [J029]

## 5. 分析結果

分析結果についてはまず全体の傾向について述べ、その後、「前置き」「依頼」「状況説明」に焦点を当てた出現順序パターンの分析結果を述べる。

### 5.1. タグの出現傾向に関する分析

YNU コーパスにおける各構成要素（タグ）の出現にどのような傾向が見られるかを確認するため、タグの出現順序について分析を行った。まず、各タグの実際の出現に対して、その直前と直後にはどのようなタグが出現するかについて調査した。調査結果をまとめたものを表3に示す。ここでは、コーパス中のすべてのタグの出現に対して隣接する二つのタグを順序対として抽出し、抽出できた対の数を求めている。行見出しは抽出した順序対  $(a, b)$  の  $a$  に対応するタグを表し、列見出しは  $b$  に対応するタグを表す。例えば行見出し「対」(対人配慮)に注目すると、コーパス全体にわたって「対人配慮」は42 (=20+14+8) 個出現しており、「対人配慮」の直後に「依頼」が出現するものが20件、「副次的依頼」が出現するものが14件、「挨拶」が出現するものが8件あったことが分かる。列見出し「対」(対人配慮)に注目すると、コーパス全体にわたって出現する「対人配慮」42 (=5+17+12+8) 個のうち、直前には「前置き」が5件、「状況説明」が17件、「依頼」が12件、「副次的依頼」が8件出現していることが分かる。このことから、「対人配慮」の前後には「依頼」や「副次的依頼」が一定の頻度で隣接して出現することが分かり、依頼メールにおける配慮表現は依頼表現の近傍に添えられる傾向があることが読み取れる。

表3：隣接した構成要素（タグ）の出現状況

直後 直前	件	宛	切	自	前	状	依	副	対	挨拶	署	他
件		24	4	1								
宛			24	1								
切				28	2	1						
自			3		10	10	7					
前						19	2		5	1		
状					2		12		17			
依					13	1		8	12	6	1	
副									8	9	5	
対							20	14		8		



挨拶												22
署												
他												

※ 件：件名、宛：宛名、切：切り出し、自：自己紹介、前：前置き、状：状況説明、依：依頼、副：副次的依頼、対：対人配慮、挨拶：挨拶、署：署名、他：その他、を意味する。

次に、タグ出現の前後関係にどのような傾向が見られるかを調査するため、コーパス中のすべてのタグの出現に対して、そのタグよりも後方に出現するタグとその個数を求めて集計した。集計結果をまとめたものを表4に示す。表の各行は、行見出しのタグの後方に、各列見出しのタグがコーパス全体にわたってそれぞれ何件出現しているかを意味している。また、この集計方法では、各列は列見出しのタグの前方に、各行見出しのタグがコーパス全体にわたってそれぞれ何件出現しているかを意味していると解釈できる。ここで、各メールには同一のタグが複数にわたって出現することがあるため、各タグの出現回数はコーパスに含まれるメールの数よりも大きいことがある。

表4：構成要素（タグ）の前後関係の出現状況

直後 直前	件	宛	切	自	前	状	依	副	対	挨拶	署	他											
件		24	31	29	26	30	40	21	40	24	27												
宛			27	25	21	26	33	20	36	20	24												
切				3	28	27	32	42	23	43	25	29											
自					3	27	31	41	22	42	24	28											
前						3	20	25	20	33	21	26											
状							8	1	34	23	44	25	28										
依								14	8	11	31	36	33	39									
副										2	8	17	21										
対											2	1	21	28	19	35	38						
挨拶																							
署																							
他																							

※ 件：件名、宛：宛名、切：切り出し、自：自己紹介、前：前置き、状：状況説明、依：依頼、副：副次的依頼、対：対人配慮、挨拶：挨拶、署：署名、他：その他、を意味する。

本研究ではタグの出現順序のモデルとして、件名→宛名→切り出し→自己紹介→前置き→状況説明→依頼→副次的依頼→挨拶→署名の順を想定していたが、この集計結果によれば、コーパス中のメールではいくつかの順序の変動等は見られるものの、概ね事前の想定に従った順序の元でタグが出現していることが分かる。特に、状況説明

の後方に依頼が出現するケースが34例であるのに対し、依頼の後方に状況説明が出現するケースは8例であり、分析対象となった依頼メールの状況では、依頼の前に状況を説明する傾向が現れている。なお、依頼の後方に前置きが出現するケースが14例見られるのは、今回の分析でタグの包含関係を考慮していないことに起因すると考えられる。前置きは本研究の定義によれば「メールを送信した理由を明らかにする部分」であるが、メールを送信した理由は依頼であるため、前置き部分に具体的な依頼内容が含まれるような表現がコーパス中にしばしば見られる。このとき、タグ「前置き」の対象部分の内部にタグ「依頼」の対象部分が重複して出現し、タグに包含関係が発生する。今回の分析ではこうした包含関係をすべて平面的かつ排他的に扱うものとした。例えば本分析では、図1のようなタグが出現していた場合には「依頼」→「前置き」という順序関係と単純に解釈した。この文は全体が「前置き」に該当するとともに解釈できるが、タグが重複して出現する場合にどのような分析を適用するかについては今後の検討課題である。

今回、田中先生に『環境学入門』という本をお借りしたくてメールさせていただきました。

依頼

前置き

図1：包含関係を持つ構成要素（タグ）の出現例

## 5.2. 「前置き」「依頼」「状況説明」に焦点を当てた出現順序パターン

表5は、構成要素のうち、「前置き」「依頼」「状況説明」に焦点を当て、出現順序パターンを分類したものである。

表5 「前置き・依頼・状況説明」の組み合わせ

	グループ	パターン	対象者	合計	備考
1	①「1文=1構成要素」の組み合わせ	前-状-依	1・2・5・12・ 15・16・19・30	8	30は状況が2文
2		状-依	6・9・17・29	3	29は状況が3文
3		前-状-依-状	13	1	
4	②「1文=複数の構成要素」の複合	<依・前>-<状・依>	10	1	
5	③「1文=1構成要素」と「1文=複数の構成要素」の組み合わせ	状-<状・依・前>-依	18	1	
6		状-<状・依・前>	11	1	
7		状-<状・依>	22・25	2	
8		状-<状・依・前>-依	4	1	
9		<状・前>-状-依	3・14・21・27	4	
10		<状・前>-依	7	1	
11		<状・依・前>-依	8	1	
12		前-状-<状・依・前>	20	1	

13	前-状-<状・依>	23	1	
14	前-状-<状・依・前>	28	1	
15	<依・前>-<依・前>-依	26	1	
16	<依・前>-状	24	1	
17	<状・前>-状-<状・依>	14	1	

※「各構成要素（タグ）＝1文」が基本である。2文のものは備考に記載した。

※「<・・>」は一文内が複数の構成要素（タグ）から成るという意味である。

表2にあるように、本研究では、「前置き」とは「メールを送信した理由を明らかにする部分」、「依頼」とは、「一次的依頼内容（単独あるいは前置きに組み込まれたもの）」、「状況説明」とは、「依頼に至った理由や周辺情報を説明するもの」と定義している。

組み合わせパターンは、表5の通り、17パターン抽出された。また、1文がいくつの構成要素から成るかとの観点からさらにグループ分けしたところ、以下の3種のグループに分類できた。

- ①「1文＝1構成要素」の組み合わせ（パターン1・2・3）…計12人
- ②「1文＝複数の構成要素」の複合（パターン4）…計1人
- ③「1文＝1構成要素」と「1文＝複数の構成要素」の組み合わせ（パターン5～17）…計17人

①グループでは、「前-状-依」のパターン1が8人と非常に多く、全17パターンの中でも、突出している。前置きにてメール送信の理由を明示することにより、読み手に「構え」を作らせた上で、お願いするに至った理由や周辺状況を述べ、依頼をしている。前置きにより、後に続くメール内容が予想できることから、読みの効率がよいと思われる。また、具体的な依頼の前に、状況説明をすることによって、負担の重い依頼をしなければならない事情を読み手に伝えることができる構成であると考えられる。次点として、「状-依」のパターン2が4人と続いている。

件名：教育人間科学部〇年の【J001】です。  
件名

本文：

田中先生  
宛名

お忙しいところ失礼いたします。  
切り出し

私は教育人間科学部〇年の【J001】と申します。  
自己紹介

この度はお伺いしたいことがありメールを送らせていただきました。  
前置き

私は現在『環境学入門』という本を探しております。

授業のレポートを書くために必要なのですが、図書検索をしたところ先生の研究室にある  
状況説明

ようでした。

そこでこの本をお借りするために先生の研究室へお伺いしてもよろしいでしょうか。  
依頼

よろしくお願ひいたします。  
挨拶

【J001】  
署名

図2①「1文=1構成要素」の組み合わせ（「前-状-依」）の例 <J001>

件名：教育人間科学部〇年の【J006】です。  
件名

本文：

田中先生  
宛名

突然のメール、失礼します。  
切り出し

私は、教育人間科学部〇年の【J006】です。  
自己紹介

今、授業で〇〇についてレポートを書いているのですが、田中先生の研究室にある『環境学  
状況説明

入門』という本を参考にしたいと思っています。

よろしければ、本をお貸しいただけませんか？  
対人配慮 依頼

田中先生の空いている時間に伺いたいと思っています。  
副次依頼

よろしくお願ひします。  
挨拶

【学籍番号】【J006】  
署名

【メールアドレス】

図3①「1文=1構成要素」の組み合わせ（「状-依」）の例 <J006>

②グループは、「〈依・前〉-〈状・依〉」のパターン4のみである（一人）。「〈・〉」は、1文が複数の構成要素から成ることを表している（以下同じ）。図14の例では、「レポート作成の際に必要なので(状況説明)お力をかしてもらえると嬉しいです(依頼)」のように、「状況説明+の+依頼」に組み合わせであるが、やや不遜な印象が出てしまっている。由井（2015）は「依頼場面における理由と依頼の関係は、直接的な因果関係とすると不躰な印象になる」（p.157）と述べていることから、一文内で「私的な事情を含む状況説明」を理由の「の」で示し、「依頼」と結ぶことが、不躰感に繋がっていると思われる。

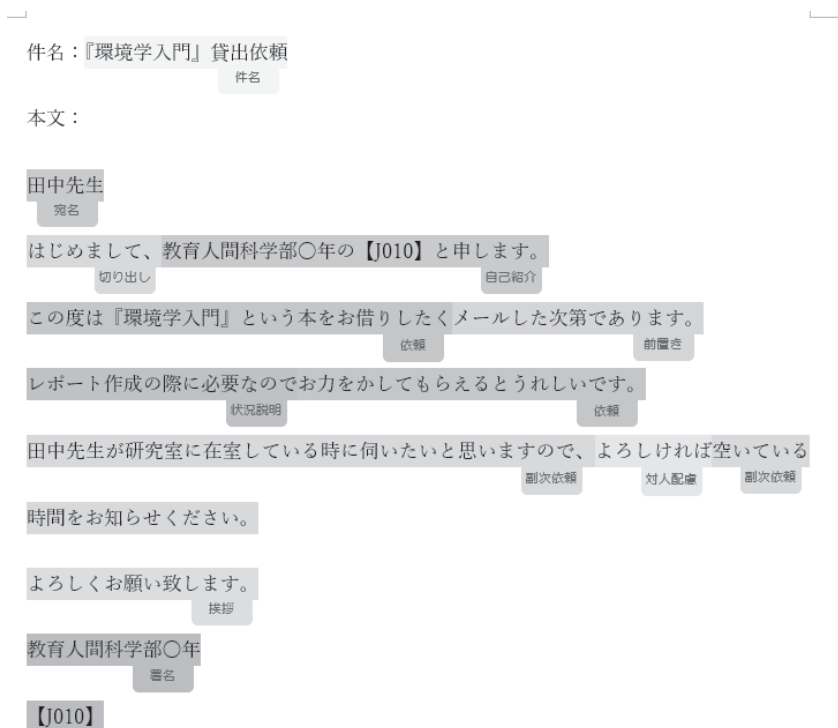


図4 ②「1文＝複数の構成要素」の複合「〈依・前〉-〈状・依〉」の例 <J010>

③は、「1文＝1構成要素」と「1文＝複数の構成要素」の組み合わせであり、全17パターン中13と最多で、また、同パターンのメール作成者も30名中17名と半数を超えている。中でも、図5の例「〈状・前〉-状-依」が4人と最も多かった。また、「〈・・〉」内の構成要素の組み合わせでは、「〈・・前〉」のように、最後が「前置き」であるものが全13パターン中11と群を抜いて多い。本研究では、「今回、『環境学入門』という本をお借りできないかと思い、(依頼) 連絡を差し上げた次第であります。(前置き)」に観察できるように、下線部の表現をはじめ、文末の「(お願い

／ご相談／ご依頼 があり、) メール致しました / ご連絡させていただきました」などの表現を「前置き」のマーカーとし、認定を行った。本パターンでは、「状況説明」や「依頼」が「前置き」に内包されていると捉えるのがよさそうである。

件名：教育人間科学部〇年 【J003】  
件名

本文：

田中先生  
宛名

初めてメールを差し上げます教育人間科学部〇年、【J003】と申します。  
切り出し 自己紹介

今回、『環境学入門』という本をお借りできないかと思い、連絡を申し上げた次第であります。  
依頼 前置き

『環境学入門』という本を授業のために使いたいと考え、図書館で探したところ、田中先生の研究室にあることが分かりました。  
状況説明

もし、よろしければ、お借りすることはできないでしょうか。  
対人配慮 依頼

急な連絡で申し訳ありません。  
対人配慮

お忙しいとは思いますが、よろしくお願いします。  
挨拶

教育人間科学部

〇年 【J003】  
署名

図5 ③「1文=1構成要素」と「1文=複数の構成要素」の組み合わせ（「<状・前>-状-依」）の例 <J003>

## 6. まとめと今後の課題

本稿は日本人大学生へのメール文指導についての基礎的研究として、「YNU 書き言葉コーパス」のうち日本人大学生が大学の教員宛に書く依頼メールを対象に依頼メールの構成を明らかにすることを目的とし、依頼メールの構成要素（タグ）の枠組みを定め、その構成要素の枠組みからの分析を行った。構成要素（タグ）の枠組みとしては件名、宛名、切り出し、自己紹介、前置き、状況説明、依頼、副次的依頼、対人配慮、挨拶、署名を設定し、全体の傾向と「前置き」「依頼」「状況説明」に焦点を当てた出現順序パターンの分析結果を述べた。

今後の課題としては、1) 構成要素（タグ）が重複して出現する場合にどのような



分析を適用するか、2) 依頼内容を変えた依頼メールでも今回の構成要素(タグ)の枠組みが適用できるか、3) 構成要素(タグ)の出現傾向から典型的なメール例を複数提示し、日本語母語話者による評定調査を実施するなどがあげられる。

#### 参考文献

- 猪崎保子(2000)「『依頼』会話にみられる『優先体系』の文化的相違と期待のずれ」『日本語教育』104, pp.79-88.
- 金澤裕之, 嵐洋子, 植松容子, 奥野由紀子, 金庭久美子, 金蘭美, 西川朋美, 橋本直幸(2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』東京: ひつじ書房.
- 金蘭美(2017)「YNU 書き言葉コーパスに見られる日本語学習者の接続詞の使用について: 韓国語母語話者の『逆接』関係の接続詞に注目して」『横浜国大言語研究』35, pp.93-79. [https://ynu.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=8089&file\\_id=20&file\\_no=1](https://ynu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=8089&file_id=20&file_no=1) (2020年10月24日閲覧)
- 熊谷智子・篠崎晃一(2006)「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」『言語行動における「配慮」の諸相(国立国語研究所報告123)』, pp.19-54. 東京: くろしお出版 [https://repository.ninjal.ac.jp/?action=repository\\_action\\_common\\_download&item\\_id=1372&item\\_no=1&attribute\\_id=43&file\\_no=1](https://repository.ninjal.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=1372&item_no=1&attribute_id=43&file_no=1) (2020年10月24日閲覧)
- 謝オン(2001)「談話レベルからみた「依頼発話」の切り出し方 - 日本人学生同士と中国人学生同士の依頼談話から -」『日本研究教育年報』5, pp.77-101.
- ツォウンティ・マイ(2007)「依頼のEメールに対するベトナム人・日本人の評価意識比較—『対人配慮』に注目して」『日本言語文化研究会論集』3, pp.169-196. [http://www3.grips.ac.jp/~jlc/jlc/report/docs/11th/11th\\_mai.pdf](http://www3.grips.ac.jp/~jlc/jlc/report/docs/11th/11th_mai.pdf) (2020年10月24日閲覧)
- 東会娟(2015)「韓国語日本語学習者と日本語母語話者の依頼メールの比較」『日本語教育方法研究会誌』22(2), pp.40-41. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jlem/22/2/22\\_KJ00010034017/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jlem/22/2/22_KJ00010034017/_pdf/-char/ja) (2020年10月24日閲覧)
- 長嶺智恵子(2013)「依頼メールへの評価観点の日仏比較—「謙虚さ」に着目して」『第17回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム報告・発表論文集』pp.109-114. <http://apje.es/wordpress/wp-content/uploads/2017/02/%E7%AC%AC17%E5%9B%9E%E3%83%A8%E3%83%BC%E3%83%AD%E3%83%83%E3%83%91%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E6%95%99%E8%82%B2%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B8%E3%82%A6%E3%83%A0%E3%80%80%E5%A0%B1%E5%91%8A%E3%83%BB%E7%99%BA%E8%A1%A8%E8%AB%96%E6%96%87%E9%9B%86.pdf> (2020年10月24日閲覧)
- 生天目知美, 劉雅静, 大和啓子(2012)「日中韓の友人会話における依頼の談話展開」『筑波応用言語学研究』19, pp.15-29. [https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=28138&file\\_id=17&file\\_no=1](https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=28138&file_id=17&file_no=1) (2020

年 10 月 24 日閲覧)

- 萩原章子 (2014)「日本語学習者による E メール作成：書き手中心から読み手中心へ」『早稲田日本語教育実践研究』2, pp. 9-24. [https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=26097&file\\_id=162&file\\_no=1](https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=26097&file_id=162&file_no=1) (2020 年 10 月 24 日閲覧)
- 胡芸群 (2014)「メールに対する読み手の評価：読み手の属性による評価の観点の違い」, 『一橋大学国際教育センター紀要』5, pp.81-91. <https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/26863/1/kokusai0000500810.pdf> (2020 年 10 月 24 日閲覧)
- 松田謙次郎 (2009)「談話型による第 2 次岡崎敬語調査 3 場面分析の試み」『Theoretical and applied linguistics at Kobe Shoin : トークス (神戸松蔭女子学院大学)』12, pp.13-19. [https://shoin.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=1527&file\\_id=22&file\\_no=1](https://shoin.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1527&file_id=22&file_no=1) (2020 年 10 月 24 日閲覧)
- 宮崎玲子 (2007)「電子メールにおける依頼の展開構造—日本人母語話者とタイ人日本語学習者の対照研究—」『日本語・日本文化研究』17, 大阪外国語大学日本語講座, pp.175-184.
- 由井紀久子 (2015)「ライティングにおける談話とプロフィシエンシー—Eメールの教材化のために—」鎌田修・嶋田和子・堤良一 (編)『プロフィシエンシーを育てる 3 談話とプロフィシエンシー—その真の姿の探究と教育実践をめざして—』東京：凡人社, pp.147-238.